

事業所における自己評価結果(公表) - 児童発達支援 -

公表：平成 31 年 3 月 11 日

事業所名 広島西こども発達支援センターくれよん

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	②	職員の配置数は適切である	○		・子どもの特性に合わせた丁寧な支援を行うため規定人数より多く、職員配置をしています。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・「場所」「時間」「活動」の構造化、視覚的手がかりの利用などを日常的に行っています。 ・全室バリアフリー化しています。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・生活空間の整理、整頓を常に行い余分な情報が子どもたちに入らない工夫(パーテーションの利用を含む)をしています。 ・季節を感じる小物や花などを日常的に飾っています。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			今後も業務改善を意識した取り組みの推進を行います。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者からの意見や要望に耳を傾け、できるだけ改善の方向に取り組むように努力しています。	今後も保護者等の方の意向把握をします。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	現在は、第三者による外部評価は実施していません。	第三者による外部評価実施にむけ、法人全体で努力します。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		法人全体の研修計画に則り、階層別研修、事業所ごとの OJT、OFFJT、SDS を充実させていくように努力しています。	今後とも、積極的に研修の機会の充実に努めます。
適切な	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		サービス等利用計画の評価も参考にしながら、適切な個別支援計画作成に努力しています。	アセスメント能力向上のための研修を実施していきます。

支援の提供	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		子どもさんの状況に合わせて、遠城寺式乳幼児分析的発達検査表、新版K式発達検査及びWISCIV知能検査の定期的な実施を行っています。	TASPやVineland II適応行動尺度の導入を検討します。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		出来るだけわかりやすい具体的な支援内容になるようにしています。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		職員間で協議し、毎日の日案や行事などの指導案を立案しています。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		絵本を基にした遊び、季節の行事を取り入れた遊び、室内遊び、戸外遊び、プール療育など次回の活動が待ち遠しくなる活動を準備しています。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		子どもさんの年齢や発達課題に応じて適宜、個別活動を取り入れています。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日立案する日案や指導案を使い、必ず事前に打ち合わせをしています。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		常勤職員だけでなく、短時間の職員とも、午睡の時間などを利用して振り返りや気づきを共有しています。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		教室の担当者と児童発達支援管理責任者が参画しています。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		ネットワーク会議に参加したり、関係機関との連携を日常的に行っています。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				

連携関係機関や保護者との連携	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			
	㉑	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		移行先との連絡会を実施し情報の共有を行っています。
	㉒	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		教育委員会や学校との情報共有を適宜実施しています。
	㉓	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	㉔	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		近隣の保育園との交流を実施しています。(毎日通園：年長児のみ)

保護者への説明責任等	㉕	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		法人単位で参加しています。
	㉖	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日常的な子どもの様子の伝え合い、個別懇談、発達検査後の懇談などを行っています。
	㉗	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		保護者研修として、ペアレント・トレーニング研修会を実施しています。(毎日通園)
	㉘	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用前の説明の時に、丁寧にお伝えするようにしています。
	㉙	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		
	㉚	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・タイムリーな相談に乗るようにしています。 ・定期的な懇談日を設定しています。(週1日通園)
	㉛	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		月に1回、地域別に別れた保護者の集いを開催しています。(毎日通園)
	㉜	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		

	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		センターだよりを1年に1回定期発行をしています。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報の保管場所には鍵をかけています。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		口頭で伝えるだけでなく、文書やメールなど文字に残る伝達方法を工夫したり、何度か繰り返し伝えるようにしています。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		毎年11月にくれよんフェスティバルを開催し、地域の方に来ていただくようにしています。	
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルは職員間では周知していますが、保護者への周知は一部しかできていません。	保護者の方に、周知するようにしていきます。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年6回、教室時間内に訓練を実施しています。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		利用開始時の調査票や保護者からの聞き取りにて状況確認を行っています。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		医師の指示書を必ず頂き、朝のミーティングで献立を確認しています。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		法人全体で、ヒヤリハット報告書を作成し、全職員への回覧を実施しています。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止や権利擁護の研修を定期的実施しています。	
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		研修会に参加し、職員全体で情報共有をしています。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。